

# 青森市子ども会議フォーラム 2018

## 「FOR CHILDREN～小さな声を大きな力に～」開催概要

- 1 日時 平成 30 年 11 月 17 日（土） 9 時 30 分～15 時 30 分
- 2 場所 青森市議会 議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員 20 名（欠席者 9 名）  
子どもサポーター1 名（欠席者 3 名）  
市長、事務局 11 名
- 4 次第
  - 1 開会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 第一部 私たちからの意見提案（議場）
  - 4 市長からの感想  
～ 休憩 ～
  - 5 第二部 子ども会議と一くいべんと（委員会室）
  - 6 閉会

### 5 開催概要

長い準備期間を経て、ついにこの日を迎えました。

市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年 11 月 20 日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。昨年度に続き、市議会議場をお借りしての開催です。

午前 8 時、少し早い時間でしたが自分たちでデザインしたお揃いの T シャツを着用した子どもたちが集合です。議会の委員会室を控室にして、最終確認などをします。第一部の意見提案は全員で交代しながら発表を行うため、読む順番や場所など細かいところの調整をします。

本番の 2 時間前には議場に入ってリハーサルです。先ほどまで元気に話をしていた子ども会議委員たちも議場内では真剣な表情になっていました。特に議長席に座る委員は、全体から視線を一身に浴びる位置になるため、より一層緊張している様子です。

リハーサルを終えると、本番に備えて準備をし、10 時 45 分、いよいよ青森市子ども会議フォーラム 2018 がスタートしました。



**青森市子ども会議フォーラム 2018**  
**「FOR CHILDREN ～小さな声を大きな力に～」**

はじめに、子ども会議フォーラムの開催にあたって小野寺市長からあいさつがありました。

あいさつでは、昨年度の子ども会議フォーラムで子ども会議委員から出された提案や意見に対する成果について、パネルを使用しながら説明しました。公園遊具が整備されたこと、プロのスポーツチームが市内の学校を訪問していること、「A o M o L i n k ～赤坂～」でカシスの冷凍果実販売が始まったことなどを述べていました。

そして最後に、「このように子ども会議委員の皆さんから頂いた意見は、様々な形で青森市の街作りに生かされています。今日も、子ども会議委員の皆さんから沢山のご提案をいただけることを楽しみにしております。皆さんの声が青森市の街作りを進める大きな力になり、なにより子ども会議委員の皆さんの貴重な体験になることを期待して、私からの開会のあいさつとします。」と結びました。



続いて、第一部「私たちの意見提案」が行われました。

## 1 「子どもたちの運動場所」グループの発表

### <活動をはじめたきっかけ>

昨年度、私たちは子どもが室内で運動できる場所が少ないと感じ、気軽にスポーツをする環境がもっとあればいいと思い、沖館市民センターの多目的ホールを予約し、子ども会議主催のスポーツイベントを開催しました。

結果が好評だったことから需要があると考え、このようなイベントを市でも開催して欲しいと考えました。しかし、一回の結果だけで需要があるとは言えないと思い、今年度も同様のイベントを開催し需要があるかどうかを確かめることにしました。



### <これまでの活動内容>

- ①スポーツイベントの実施会場の調査、予約
- ②自由にスポーツができる子ども会議主催のイベントの実施（10月14日）

### <意見提案内容>

- ①市民センターの一般開放日をもっと増やせないか、もしくは子どものみの開放日を増やせないか。

⇒子どもたちにとって自由に運動できる場所を増やすため、特に子どものみの開放日があれば安心して、より確実に自由に運動できる環境が整うから。

- ②市民センターの一般開放日の情報をもっと子どもたちに広めて欲しい。

⇒一般開放があること自体、子ども会議委員も知らない人が多かったため、もっと子どもに分かるようになればいいと思うから。

③「カクヒログループスタジアム」（市民体育館）は一般開放日を増やせないか。

⇒予約が多く、一般利用は難しい。もっと子どもだけで自由に使える室内運動場所があればいいと思うから。

続いて、ただいまの意見に対して、市からコメントをもらいました。

#### 市からの回答

（小野寺市長）

①の意見について、市民センターは、非常に市民の皆さんに愛されている施設である。市民センターの多目的ホールを含めた体育館は、大変人気で登録した団体以外でも利用して頂けるよう、団体利用の日のみならず一般開放日というのを作っている。たとえば、西部市民センターでは週に2日、年間では、93日程度、油川市民センターでは週に1日、年間では52日程度、このほか土日祝日も開放している市民センターもある。現状では、できるだけこうした市民開放の日を設けようとしているので、それを増やす事は実は、あまり簡単な事ではない。

また、子どもの開放日については、沖館市民センターでは、毎週土曜日の9時から16時まで小・中学生を対象に開放日を設けている。市民センターは、子どもから高齢の方まで幅広く利用しているので、各センターのセンター長とも相談をし、現在設定している一般開放日を、月に1回又は年に何回、子どもの開放日にできないかを相談してみたいと思う。貴重な提案であり、センターと力を合わせてできるだけ子どもの運動場所の確保に努めたいと考える。

（教育委員会 工藤部長）

②の意見について、各市民センターの一般開放は、日時や場所、利用条件が異なるため、各市民センター内に掲示し、皆さんにお知らせしている。一般開放日の情報提供を、皆さんをはじめ多くの方々に広く周知することは、市民サービスを進める上で大切な事と考え、今後は市のホームページに掲載し、さらには各市民センターから近隣の学校へのお便りなどの周知方法を工夫して実施する。



（経済部 百田理事）

③の意見について、カクヒログループスタジアムでは、年に1回、毎年10月上旬に開催する市民体育祭の一環として、「体育の日」に第1～第3体育室、トレーニング室を無料で開放している。今年は10月8日に無料開放し、362名の方に御利用いただいたところである。

カクヒログループスタジアムの利用については、主競技場及び第1体育館は、現在、バスケットボール、卓球、バレーボールなど多くの方が利用しており、平成28年度の実績では、土日祝日及び平日の夕方以降（17:00～21:00）の約8～9割が、大会や団体等の予約で利用されている状況。

このような状況から、今回子ども会議委員の皆さんから提案をいただいた、予約を入れずに当日に来た方が自由に使用できる一般開放日を増やす事については、直ちに実施することは難しい状況であるが、今後、利用状況などを踏まえながら実現可能性について検討していきたい。

続いて、市からのコメントに対し子ども会議委員の代表者から感想をもらいました。

(子ども会議委員)

市民センターの数が、11施設もあるということに驚いた。また、その中で土日の開放をしているのは9施設あり、団体登録をして利用してほしいとのことであるが、登録するには大人がいないと難しいため、やはり子どもが自由に運動できる場所を確保するという意味では、もう少し環境が整うといいなと思った。

## 2 「青森の食・特産品」グループの発表

<活動をはじめたきっかけ>

昨年度、あおもりカシスについて調査し、子ども会議フォーラムで発表したときに、ほかにも青森市にはたくさんの特産品があると知った。今回は特産品の中から「あおもり海道そば」を選び、JA農協への取材をし、「あおもり海道そば」の試食会を開催した。「あおもり海道そば」を選んだ理由は、ホームページで「あおもり海道そば」を見つけ、「そば」という身近な食べ物が市内で生産されていることを知り、紹介したいと思ったから。



<これまでの活動内容>

- ① JA農協への取材
- ② 子ども会議スポーツイベントでの試食会  
(10月14日)
- ③ あおもり海道そば「新そば&秋まつり」の視察



<意見提案内容>

- ① 市では「あおもり海道そば」や他の青森市の特産品について、これまでどのようなPR活動を行っているのか教えてほしい。  
⇒ 青森市にはおいしい特産品がたくさんあるのに、「あおもり海道そば」のように、私たちが知らないものがある。特産品を知ってもらうため試食会を開催したが、市が実施している様々なPR活動を参考にしたいと思うから。
- ② 子ども会議として青森市の特産品を広めるお手伝いがしたい。子どもや若者向けの特産品があったら教えてほしい。  
⇒ 今回のような試食会を開催するとしたら、子どもや若者向けの特産品があれば食材としてみたいと思うので、そのような特産品があれば教えてほしいから。

続いて、ただいまの意見に対して、市からコメントをもらいました。

## 市からの回答

(小野寺市長)

②の意見について、皆さんが昨年度も調べていただいたとおり、青森市の特産品は、もちろんりんごで、国内トップクラスの生産量を誇る。また、あおもりカシス。これは、青森市が日本一の収穫量になっている。あおもり海道そば、ミニトマトベビーベビー、バサラコーン、青天の霹靂・ブランド米、トマトやネギなど、水産物では、ホタテなども馴染みのある特産物だと思う。



今年、青森市が初めて参画した特産品のPRイベント「うまい森、青いもりフェア」というフェアがあった。青森の食を応援する地域アイドル「GMU」さんにご登場いただき、青森市の特産品のPRを目的に作ったキャッチフレーズ「幸たっぷりと青森市」を使ってあおもりカシスなどをPRしていただいた。子どもや若者向けの特産品という意味ではアオベジという野菜がある。これはルッコラやズッキーニなどの西洋野菜で、青森市では、西洋野菜を使ったイタリア料理やフランス料理を提供するお店が沢山あるので、ブランド化したものである。こうしたもののPRも食レポも「GMU」の皆さんに一生懸命やっていただいた。

一緒に青森の特産品を盛り上げてくれるという提案を受け、皆さんが活躍できる場をぜひ用意したいと思う。

(農林水産部長 梅田部長)

①の意見について、「あおもり海道そば」は、そばの生産者、地元のそば店、そば打ち研究会、青森市、県などで構成される「あおもり海道そばブランド推進協議会」が中心となり、PR活動を行っている。

「あおもり海道そば」を食べることができるお店、そば粉を使用したスイーツ、そば粉、蕎麦そうめんを購入できるお店を紹介している「食べ歩きガイドマップ」の作成のほか、毎年そばの実が収穫される秋には、「新そば祭り」の開催など一般の方々に海道そばのPRと、そばを味わえる機会を提供している。

次に、青森市の特産品のPRについては、市の広報紙である広報あおもりやホームページのほか、市や農業協同組合、漁業協同組合などで組織している「あおもり産品販売推進協議会」のホームページ、そしてSNSなどで市産農林水産品の魅力や旬の時期などの情報を発信している。

また、県が県外の量販店で開催している「青森県フェア」などでは、市長自らが市産農産物をPR・販売するトップセールスを行い、市産りんごを市民にPR・販売する「青森市産りんご大市」を開催するなど、さまざまな機会を捉えて、青森市の特産品のPR活動をしている。

続いて、市からのコメントに対し子ども会議委員の代表者から感想をもらいました。

(子ども会議委員)

自分たちが調査したあおもりカシスやあおもり海道そばの他にも、やっぱり青森市には沢山特産品があると改めて実感した。市長から提案があった食レポもやってみたいと思った。

### 3 「まちづくり」グループの発表

<活動をはじめたきっかけ>

私たちの住んでいる青森市の顔である駅前や中心商店街が、もっとにぎわって欲しいという気持ちから、中心商店街の活性化を研究することとなった。また、若者が集まるにはどうすればいいか意見を出し合った。出された意見としては、

- ・もっと休憩スペースが欲しい
- ・若者向け、家族で行ける店が少ない
- ・無料駐車場が少ない

という意見や希望が出されたが、一方

- ・コンビニが多くて便利
  - ・サラリーマン向けの店が増えてきた
  - ・クルーズ客船で来た外国人観光客が増えている
- などの意見も出された。

私たちは、これらの意見の中から、現在増えているクルーズ客船で来た外国人観光客が、中心商店街に足を運んでくれるようになれば、にぎわうのではないかと考えた。



<これまでの活動内容>

- ①「あおもり街てく」に参加（観光ボランティアによる中心商店街のガイド）
- ②外国人向けパンフレットから、地元の若者向けのおすすめスポットパンフレットに変更
- ③中心商店街の聞き込み調査、「青森市中心商店街おすすめ CAFE & SPOTS」を作成

<意見提案内容>

- ①クルーズ客船などで来た外国人観光客が、青森市を楽しく観光できるように適切な看板・表記で案内し、英語等言語についての環境を整えて欲しい。

⇒日本人が直訳したような英語の看板などがあって、外国の方には分かりづらいものがあるようだから。

- ②中心商店街に若者を集めるためにどのようなことをしているのか。

⇒私たちは若者向けの CAFE & SPOTS のパンフレットを作って活性化を図ろうと考えたが、青森市ではどのような対策をとっているのか参考にしたいと思ったから。



続いて、ただいまの意見に対して、市からコメントをもらいました。

## 市からの回答

(小野寺市長)

②の意見について、青森市では、この中心街を若者の皆さんも集まるにぎやかな街にしたいという思いで、商店街やまちづくりに関わる皆さんと連携して、若者の皆さんが集まる「仕掛けづくり」に取り組んでいる。

各商店街の皆さんが中心となって実施するイベントやイメージアップへの支援、学生の皆さんが地域の課題やビジネスに繋がる活動を行う現地学習フィールドスタディへの支援もしている。また、これから商店街でお店を開こうと考えている方に対し、専門家による相談や助言を行うスタートアップセンターという相談窓口も青森駅前に作った。

実際にお店を開いて経営のノウハウを学ぶ実験の広場として新町にパサージュ広場設けている。今年はメキシコ料理、おしゃれなコーヒーショップがオープンし、今後、台湾料理のお店などもオープンする予定。チャレンジをしている皆さんを応援する意味でも、お母さん、お父さんと一緒にぜひ立ち寄ってみて欲しい。

こうした商店街は、新たな商売が生まれ育つところ。皆さん提案のとおり、若いメンバーがチャレンジできるように、みんなで応援をする事でそうした人達が集まってくれる場所にしたいと思う。ぜひ皆さんも、将来、ふるさと青森市でビジネスはもちろんいろんな事にチャレンジをして欲しい。

(経済部 百田経済部理事)

①の意見について、青森市を訪れる外国人観光客は、青森港へのクルーズ客船の寄港数の増加や青森空港への国際定期便の就航などにより増加している。このため市では、

- ・青森駅から新中央埠頭までの新町通りから柳町通り海側のほか、ねぶたの家ワ・ラッセなどの観光施設や観光ルートバス「ねぶたん号」へのWi-Fiの整備
  - ・観光ナビゲーションアプリの作成
  - ・指差しコミュニケーションシートの作成
- など、外国人観光客が快適に周遊できるよう、受け入れ環境を整備してきたところである。



しかし駅周辺に設置されている看板は、皆さんからもお話があったとおり、設置主体により外国語表記をしていないものや、していても表記が異なるものがある。外国人観光客にとって看板の表記が異なることは混乱を招くことがあると思うので、表記のルール整備など段階的な対応をしたいと考える。

続いて、市からのコメントに対し子ども会議委員の代表者から感想をもらいました。

(子ども会議委員)

外国人観光客や若者の為に様々な取り組みがなされていることが分かった。特に若者のことについては、お客さんとしてだけではなく、お店の人として活躍できる環境も整っていることがとても嬉しく思った。

私たちは中心商店街の活性化の為に活動を行ってきたが、根底には私たち自身が商店街を好きだという思いがある。今後も若者の視点で商店街の活性化を目指して行きたいと思うので、温かく見守ってほしい。

第一部の最後に市長から発表を聞いた感想をもらいました。

「中心商店街のパフレットを自作してしまうなど、本当に昨年度もとても感激しましたが、今年度は更に素晴らしい活動をされていてとてもうれしく思います。また、今年も運動場所を自分で作ってみようということで荒川市民センターを予約なしで運動できる場所にするイベントや、体験談を教えてくださいました。とてもうれしく思います。そして、食・特産品チームにもとても素敵な発表をいただきました。最後に三上さんから食レポやってみたいというご提案もありましたので、ぜひ一緒に青森の特産品PRをこれからも手伝って欲しいと思います。本日は素晴らしい発表をありがとうございました。」



昼休憩をはさみ、議場から委員会室へ場所を移動し、「第二部 子ども会議と一くいべんと」が行われました。

子ども会議委員が学校や家庭における身近な疑問を朗読劇・人形劇で表現し、問題解決に向け来庁者を交え意見交換をするものです。コーディネーターは、青森市子どもの権利擁護委員の沼田徹擁護委員、小林央美擁護委員、関谷道夫擁護委員が務めました。

まずは、朗読劇「学校に行けないのはダメなこと？～大人と私と不登校と～」を行いました。

これは、中学2年生になってクラスに馴染めず、不登校になりそうになっている子の悩み相談で、「お母さんは学校に行きなさいと言うけれど、学校に行けないことは悪いことでしょうか？不登校についてどう思いますか？」という内容です。これを朗読劇で表現し、その後、「母の立場、教師と生徒の立場、本人の立場」に分かれ、自分の意見とは違っても、それぞれの立場にたって議論しました。



「一番苦しい本人のことを考えたら、まず学校を休むのはしょうがないと思う。」「母の立場なら、中学校は行かなきゃだめだという気持ちは分かる。」など、様々な意見が出ました。

次に、人形劇「女の子だから、男の子だから、～しなさい」を行いました。



中学校1年生の女の子がサッカー部に入りたいというのを、親に女の子らしくないからやめなさいと言われます。「お母さんは、ジャージ姿はみっともない、サッカー部は女の子らしくないと言います。女の子がジャージ姿や、サッカーをするのはおかしいことですか？」という内容。

これについては「人に迷惑かけていないなら、自分のやりたいことをやるのはいいと思う。」という意見が多かったです。特に、家事の手伝いなどを「女の子なんだから手伝いなさい！」などと言われることに不満を持っている女の子がたくさんいました。

擁護委員が、子どもたちからたくさん意見を聞き出しながら、観客の方々にも感想や意見を求め、議論を盛り上げました。最後に沼田擁護委員から、子どもの権利の保障と子どもに寄り添った内容でまとめた感想をいただきました。

以上で、「青森市子ども会議フォーラム2018

『FOR CHILDREN～小さな声を大きな力に～』は

全て終了しました。

